



保険者サービスの向上と

健全な財政運営、最善の事業運営に努める

平成 25 年熊本県国民健康保険団体連合会通常総会

本会は、平成 25 年 2 月 22 日に熊本市のホテルキャッスルで通常総会を開催した。

平成 25 年度業務計画や予算案等、提出された議案と報告事項はすべて原案どおり可決、承認された。



開会に当たり、本会の幸山政史理事長（熊本市長）が各保険者に日ごろの国保事業運営への尽力や本会の事業運営に対する協力について謝辞を述べた上で、「国の動きとして、昨年 12 月に新政権が誕生した中で、社会保障関係では前政権下で発足した社会保障制度改革国民会議において引き続き議論される予定だが、1 月 21 日に開催された同会議で、医療と介護の議論を優先させることが確認された。これから本格的に議論されると思うが、現場を預かる者として、安心できる制度の構築を願っている。本会においては、平成 23 年 10 月に導入した国保総合システムも何とか軌道に乗ってきており、これをフルに活用して、審査支払事務の効率化や査定率の向上に取り組んで、導入効果を確認可能なものにしていかなければならない。また、25 年度は KDB（国保データベース）システムの構築を進めるとともに、特定健診・特定保健指導と後期高齢者医療請求支払の各システム機器の更新等を予定しており、保険者サービスのさらなる向上に努めていく。さらに、皆さまのご理解とご協力を得ながら、健全で透明性の高い財政運営を目標に最善の事業運営に努めていく。今後ともご支援いただきたい」とあいさつした。



開会あいさつをする幸山理事長

続いて、来賓の熊本県健康福祉部健康局の牧野俊彦局長があいさつに立ち、「社会保障制度改革について、今特に具体的情報は得ておらず、引き続き社会保障制度改革国民会議の議論を注視していく。昨年の国保関係の法律改正に伴う県の調整交付金の見直しについては、去る 12 月の県議会で条例改正を行った。市町村支援方針についても、改定案を作り、現在、市町村に意見を照会している。いずれにしろ当面は大幅な変更はないのではと考えるが、平成 27 年度に共同事業の対象が拡大されるので、円滑な実施に向けて 25、26 年度において課題を整理・検討する必要がある、皆さま方にもご協力をお願いしたい。また、25 年度からの第 2 期医療費の見通しに関する計画（医療費適正化計画）について、現在、パブリックコメントを行っている。第 2 期計画では、療養病床の機械的な削減はしないとの国の基本方針を踏まえ、療養病床の数を目標としないことが大きな変更点。県民の健康づくりやジェネリック医薬品の普及、適正受診、在宅医療・地域ケア等の取り組みを進めることとしている。特に在宅医療では、県内医師会や医療・介護・福祉関係機関等の協力を得て検討しているところで、来年度は地域ごとの検討を考えており、関係機関、各市町村のご協力も必要となる。熊本市以外では地域医療の確保も検討する必要がある。今後とも各市町村に相談しながら進めていきたいので、ご協力、ご支援をお願いする」と述べた。



来賓あいさつをする
牧野熊本県健康局長

その後、津奈木町の西川裕町長を議長に選出、水俣市の宮本勝彬町長と美里町の上田泰弘町長を議事録署名者として、議案審議に移った。議事では、平成 25 年度の業務計画、一般会計と特別会計の歳入歳出予算の認定について等、合わせて 14 の議案が提出された。また、規則の一部改正について報告された。審議の結果、議決事項・報告事項ともにすべて原案どおり可決、承認された。



議長を務める西川津奈木町長

議決事項

- 議案第 1 号 平成 25 年度業務計画について
- 議案第 2 号 平成 25 年度一般会計歳入歳出予算について
(以下、議案第 3 号～第 12 号は平成 25 年度特別会計歳入歳出予算)
- 議案第 3 号 国民健康保険関係事業特別会計（業務勘定）について
- 議案第 4 号 同上 (国民健康保険支払勘定) について
- 議案第 5 号 後期高齢者医療関係事業特別会計（業務勘定）について
- 議案第 6 号 同上 (後期高齢者医療支払勘定) について
- 議案第 7 号 保険財政共同安定化事業・高額医療費共同事業特別会計について
- 議案第 8 号 介護保険関係事業特別会計（業務勘定）について
- 議案第 9 号 同上 (介護保険支払勘定) について
- 議案第 10 号 障害者自立支援関係事業特別会計（業務勘定）について
- 議案第 11 号 同上 (障害者自立支援支払勘定) について
- 議案第 12 号 国保高齢者医療制度円滑導入基金事業特別会計について
- 議案第 13 号 平成 25 年度熊本県国民健康保険団体連合会一時借入金について
- 議案第 14 号 熊本県国民健康保険団体連合会役員改選について

報告事項

- 報告第 1 号 規則の一部改正について（手数料等徴収規則等）

📎平成25年度業務計画（基本方針）

本会は、保険者・関係機関との密接な連携のもと、

- ①基幹業務である診療報酬審査支払事業では
 - ・システムを活用した効率的な審査体制の確立
 - ・被保険者資格確認への支援
 - ・査定率の向上
 - ・保険者レセプト点検への支援
- ②保険者事務共同電算処理事業では
 - ・国保総合システムの安定的運用による事務処理の迅速化
- ③保険者支援・共同事業では
 - ・第三者行為損害賠償求償事務共同処理の推進
 - ・保健事業等への効果的な支援
 - ・特定健康診査・特定保健指導の目標値達成に向けた実践的な支援
- ④介護保険関係事業では
 - ・介護給付費審査の充実
 - ・国保連合会介護給付適正化システムの活用促進による介護給付適正化対策への支援

に取り組むとともに、事務の効率化及び経費の節減並びに財務管理の厳格化及び透明性向上に努め、保険者の共同目的達成に向け鋭意取り組むこととする。

📎平成25年度予算概要

（単位：千円）

会計名		平成 25 年度	平成 24 年度	前年度との比較	
一般会計		948,542	949,833	-1,291	99.9%
国民健康保険関係事業特別会計	業務勘定	1,170,616	1,145,742	24,874	102.2%
	支払勘定	174,173,082	167,992,959	6,180,123	103.7%
後期高齢者医療関係事業特別会計	業務勘定	953,021	977,333	-24,312	97.5%
	支払勘定	266,692,277	254,233,189	12,459,088	104.9%
保険財政共同安定化事業・高額医療費共同事業特別会計		30,494,301	32,168,066	-1,673,765	94.8%
介護保険関係事業特別会計	業務勘定	801,573	1,292,778	-491,205	62.0%
	支払勘定	143,564,457	142,459,438	1,105,019	100.8%
障害者自立支援関係事業特別会計	業務勘定	70,869	53,401	17,468	132.7%
	支払勘定	30,019,039	27,843,179	2,175,860	107.8%
国保高齢者医療円滑導入基金事業特別会計		2,672,410	2,592,229	80,181	103.1%
合計		651,560,187	631,708,147	19,852,040	103.1%

平成 25 年度予算は、24 年度比約 198 億 5 千万円（3.1%）増の 6,515 億 6,018 万 7 千円となった。介護保険関係事業特別会計業務勘定の大幅減は、介護職員処遇改善に係る事業が廃止され、当該事業関係予算が廃款になり計上されなくなったため。また、障害者自立支援関係事業特別会計業務勘定は、障害者自立支援業務に係るシステム機器の移設等もあり、24 年度比 32.7% 増となった。国保関係事業と後期高齢者医療関係事業特別会計の各支払勘定の増（それぞれ 3.7%、4.9%）は、ともに医療費実績の伸びによるところが大きい。新システムの導入や各システム機器の更新に係る予算も計上されている。

役員改選

熊本県国民健康保険団体連合会役員名簿

任期 自 平成25年4月 1日
至 平成28年3月31日

	保険者名等	氏名		
理事	熊本市	幸山 政史	理事長	
	八代市	福島 和敏		
	荒尾市	前畑 淳治※	副理事長	
	水俣市	宮本 勝彬※		
	天草市	安田 公寛※		
	山鹿市	中嶋 憲正※		
	益城町	住永 幸三郎※		
	玉東町	前田 移津行※		
	産山村	佐藤 敬助		
理事	多良木町	松本 照彦		
	苓北町	田嶋 章二	副理事長 (理事長職務代行者)	
	医師国保組合	福田 稠※		
	学識経験者	(未定)		
	監事	宇土市	元松 茂樹※	
		菊陽町	後藤 三雄	
芦北町		竹崎 一成		

※の役員が今回の改選で新しく選任された。
学識経験者については、改選前は宮田常務理事が務めていたが、同常務理事の3月末での本会退任に伴い、現在選任中。

退任のごあいさつ

熊本県国保連合会常務理事 宮田政道



私は、3月末をもって本会常務理事を退任いたします。3年の任期中、大変お世話になりました。心よりお礼、感謝申し上げます。
ご案内のように、国保制度、そして本連合会を取り巻く状況は、まさに激動のまっただ中にございます。国レベルでは、後期高齢者医療制度の改変問題や支払基金との統合競争問題に振り回されましたし、事務レベルでは、国保総合システムの導入、支払日の早期化への対応等があり、保険者の方々にご迷惑、お手数をお掛けしました。このほか、平成26年度導入予定の介護保険・障害者自立支援システムの全国一拠点化の決定等もございました。

また、任期中、二つの全国レベルのイベント、23年度の「ねんりんピック熊本」での本連合会の出展、そして昨年秋の「全国国保地域医療学会」の開催もございました。

振り返れば、幸山理事長以下役員の皆さま方のご指導・ご鞭撻、保険者各位のご支援とご協力はもちろんのこと、村崎局長以下、連合会職員一人一人の職務に対する真摯（しんし）な取り組み、頑張りがあったればこそ、何とかこの3年間の任期を全うできつつあるというのが正直なところでございます。

あらためまして衷心より関係の皆さまにお礼申し上げますとともに、4月から新しい常務理事、事務局長の下でのスタートとなりますが、激動の中の国保連合会でございます、どうか国保連合会、そして事務局に対し、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたしまして、私の退任のごあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

